

Alma のレコードのバッチの作成 (セット)

このトレーニングセッションでは、Alma でレコードのバッチ (「セット」と呼びます) を作成する方法についてご紹介します

このセッションでは、セットを実際を使用する方法とさまざまな種類のセットを作成する方法について学習します

Alma で作業をしていると、書誌レコードのメタデータを変更したりベンダーにリソースを発注したりと、一度に一つのリソースを扱います

しかし、異なるリソースに同じ変更を加える必要がある場合があります

リソースをセットにグループ化することで、そのタスクを迅速に実行できます

その後、ジョブを使用して、変更をすべてのリソースに同時に適用できます

ジョブについては次回のトレーニングで学習します

このセッションでは簡単なセットを作成して始めましょう

セットを作るにはいくつかの方法があります

最も簡単な方法は、Alma の検索バーから始めることです

プロセスタイプが[所在不明]になっている物理的アイテムを検索します

もしかしたら、所在不明のアイテムを[所在不明]に再分類する必要があるかもしれません

所在不明のアイテムのリストが表示されたので、[クエリの保存]ボタンをクリックします

新しいセットに名前を付け、オプションで説明とメモを付けます

Alma が[セットコンテンツタイプ]を物理的アイテムとして自動的に識別したことがわかります

あなたが探したものだからです

セットタイプは[ロジカル]で、これは検索に基づいているため次回検索を実行したときに、異なるアイテムが含まれる可能性があります

もう 1 つのセットタイプである[アイテム化]については、後ほど説明します

セットを[プライベート]にすると、あなただけがこのセットを見ることができます

非プライベートのセットは、機関の他のスタッフも使用できます

ステータスがアクティブに設定されている場合、このセットはジョブで使用できます

非アクティブなセットは、ジョブをアクティブにしようとしてもセットリストに表示されません

例えば、他の人が使用できるようになるまで、セットを非アクティブにしておくことができます

[保存]をクリックすると、Alma がセットを保存し、[セットの管理]ページに移動します

[マイセット]タブには、プライベートにしたかどうかに関係なく、作成したすべてのセットが表示されます

[パブリックセット]タブには、組織内で作成されたプライベートではないすべてのセットが表示されます

機関の特定のスタッフには、[すべてのセット]タブも表示されます

このタブでは、すべてのスタッフが作成したあらゆるセットが表示され、そのセットが非公開であるかどうかも表示されます

各セットの行操作メニューでは、セットの編集、セットの結果の表示（その検索を再度実行するようなものです）セットの複製、セットの削除などを行うことができます

セットを箇条書きにすることもできますが、これについては後で説明します

ちなみに、管理メニューからこのセットの管理ページにアクセスできます

先に述べたように、セットを作る方法は他にもあります

1 つ目は別のトレーニングで紹介する[Alma アナリティックス]で始める方法です

もう 1 つの方法は、ここにある[セットの管理]ページから始める方法です

[セットの追加]をクリックして、今回は[アイテムセット]にします

[詳細の設定]ページは馴染みがあるでしょう

名称などを入力した後、セットのコンテンツタイプを選択します

この例では、[電子コレクション]を選択しますセットをプライベートおよびアクティブにします

機関が **Primo VE** をお持ちの場合、コンテンツの発信元として機関のみ/ディスカバリーサービスのいずれかを選択するオプションがあります

次にこのセットにリソースを追加する必要があります

これはアイテムセットであるため、セットに追加する特定のリソースを選択します

コンピューターにファイルがある場合は必要なコレクションの名前と識別子が記載されたスプレッドシートなどファイルをここにアップロードできます

または、[Alma アナリティックス]でいくつかのレポートを作成した場合は、ここにいくつかのオプションが表示されます

または[セットにメンバーを追加]を選択します

検索ボックスを使用して、追加するリソースを見つけます

この例では、詳細モードを使用して [利用可否]が[利用不可]になっている電子コレクションを検索します

機関ゾーンに追加したものの、ディスカバリーサービスでユーザーがまだ利用できないコレクションを見つけようとしている場合

ここにはかなりの数の結果がありますが、追加したいのはこの 2 つだけです

それぞれの横にあるチェックボックスを選択し、[選択アイテムを追加]ボタンをクリックします

その後、[完了]をクリックします

セットは[セットの管理]ページに保存されます

このセットのタイプは[アイテム化]になっています

行アクションメニューを使用して、メンバーを選択します

このセットには次の2つのコレクションが追加されました

このセットに手動でメンバーを追加するか、手動でメンバーを削除しない限り セットメンバーは変更されません

前に作成したロジカルセットと比較してみてください

ここで使用できる行アクションは[結果]で、物理的アイテム検索を再度実行します

ただし、今回は結果が異なる可能性がありますたとえば、別のアイテムの所在が不明な場合

または所在不明だったアイテムの1つが見つかった場合 アイテムのプロセスタイプが別のものに変更されます

言い換えれば、ロジカルセットは動的なものであり 異なる時間に使用された場合、異なるメンバーを持つ可能性があります

しかし、アイテムセットは静的なものであり 誰かが手動でメンバーをセットに追加/削除した場合にのみ変更されます

したがって、ロジカルセットのアイテム化を選択した場合に何が起こるか推測できるかと思えます

Alma は、セットの検索パラメータに基づいて検索を実行し その結果をメンバーのアイテムセットに変換します

したがって、誰かが手動でセットにメンバーを追加したり削除したりした場合を除いてこのセットのメンバーは次に使用するときにも変更されません

セットはさまざまなプロセスに使用できますが アイテムセットは通常、1回限りのタスクに適しています

セットを組み立て、ジョブを使ってセットのメンバー全員に変更を加え セットを完成させる場合です

ロジカルセットは、たまに実行する必要があるタスクに適しています

Alma が見つけたメンバーで、今すぐセットでジョブを実行しそして次の月に再びジョブを実行して その時の検索パラメーターで **Alma** が見つけたメンバーのどれかに 変更を加える場合です

このセッションの始めに、検索から始まるロジカルセットを作成する方法をご紹介しました

今回は、[セットの管理]ページから、[セットの追加]、[ロジカル]を選択します

[セット名]を入力したら、必ず[セットコンテンツタイプ]を選択してください

次に、セットについて他の選択を行い、[次へ]をクリックします

これはリポジトリ検索を行うページです

検索できるのはセットのコンテンツタイプとして選択したリソースのタイプのみです

検索パラメータを入力し、検索ボタンをクリックします

必要な結果が得られたら、[保存]をクリックします

[詳細設定]ページに戻り、もう一度[保存]をクリックします

新しいロジカルセットを作成できました

次のトレーニングセッションでは、Alma のジョブツールを使って

セットのすべてのメンバーに変更を適用する方法を学びます